

滋賀・狐塚遺跡

きつねづか

状遺構の第一層で、この沼状遺構からは、人形・刀子形・舟形・杓子・木錘等の木製品が出土している。木簡の年代は、須恵器の年代から八世紀中頃と推定される。

所在地 滋賀県坂田郡近江町高溝字狐塚

2 調査期間 一九八七年（昭62）九月～一九八八年一月

3 発掘機関 近江町教育委員会

4 調査担当者 中川通士

5 遺跡の種類 集落跡・古墳

6 遺跡の年代 縄文時代～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

狐塚遺跡は天野川右岸の自然微高地に立地する。白鳳時代～平安時代の法勝寺跡の西側にある。民間宅地造成工事とともになう緊急

発掘調査において、弥生時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物や溝状遺構などからなる集落跡、及び六世紀中頃

木簡の形態は長方形を呈し、ヒノキ板目材を用い、上端部は欠損している。木質地の遺存状態はかなり悪い。

表面の文字は肉眼で確認できるが、赤外線カメラにより判読した。解説にあたっては、奈良国立文化財研究所の綾村宏氏のご教示を得た。

(246) × 43 × 6 081



8 木簡の积文・内容
(1) 大□人

□

□□□□□□
〔正カ〕

大十□

□

□

(中川通士)



(長 浜)
土した遺構は、南を限る沼